【O　雲仙市-愛野エリア　Unzen City-Aino Area】

愛野展望所付近から（じゃがいも畑越しに）

雲仙市-愛野エリアでは、"北西面の雲仙岳"が眺望できます。小中学校の校歌には雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。雲仙岳の山岳信仰が盛んであった往時をしのばせるものとして、温泉神社の分社（愛野温泉神社）が現存しています。山並みとしては、鉢巻山・吾妻岳～九千部岳・国見岳（・平成新山）・妙見岳～野岳～高岳の並びで多くの山々が見えますが、相対的に目立つのは吾妻岳～九千部岳のセットです。

吾妻岳と九千部岳の間には、独特な J 字状の谷地形が見えますが（↓）、これが島原半島北部を東西に横断する"千々石断層"で、高低差最大 450m にも達します。U 字状の底の平地は田代原（たしろばる）高原と呼ばれ、放牧草原が広がっています。九千部岳には、雲仙岳の化身とされる巨人"みそ五郎"にまつわる伝説があり、この断層地形を作りだす民話が伝わっています。当エリアから田代原高原へは、九州自然歩道（九州を一周する歩道）を歩いて行くことができます。

島原半島では、雲仙岳の火山活動由来の多様な土壌のため、様々な野菜が採れますが、中でもじゃがいもは長崎県の全国第2位の生産を支える特産品です。当エリアでは周辺地域の赤土の客土による表面が赤みがかった品種の栽培が盛んで、国道沿いでも農作業風景が眺められます。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、愛野エリアを旅してみませんか？

●愛野エリアの観光情報はこちら↓

雲仙市観光物産課（ガイドブック）　http://www.city.unzen.nagasaki.jp/info/prev.asp?fol_id=10176

愛野風力発電所の前から（北西から）

愛野風力発電所と雲仙岳

じゃがいも畑の農作業風景